

群 教 セ	H01 - 01
	令 2.275 集
	幼児教育

# 友達を意識しながら楽しく園生活を送るようになる幼児の育成

—観察や記録写真、教師間の情報等を基にした幼児理解を通して—

特別研修員 阿久津 智美

## I 研究テーマ設定の理由

幼稚園生活において、幼児が教師や友達と関わり合う中で信頼感を抱き、他者を意識して遊びや生活を展開していくことは人と関わる力を育てることになると捉えられる。幼児を取り巻く家庭や地域社会の変化を背景に、幼稚園教育要領解説の「人間関係」の領域では、互いの関わりของ深まりや協同する経験、自信をもって行動すること、自己発揮と自己抑制の調和のとれた自立性、規範意識の芽生えなどの重要性が提示されている。

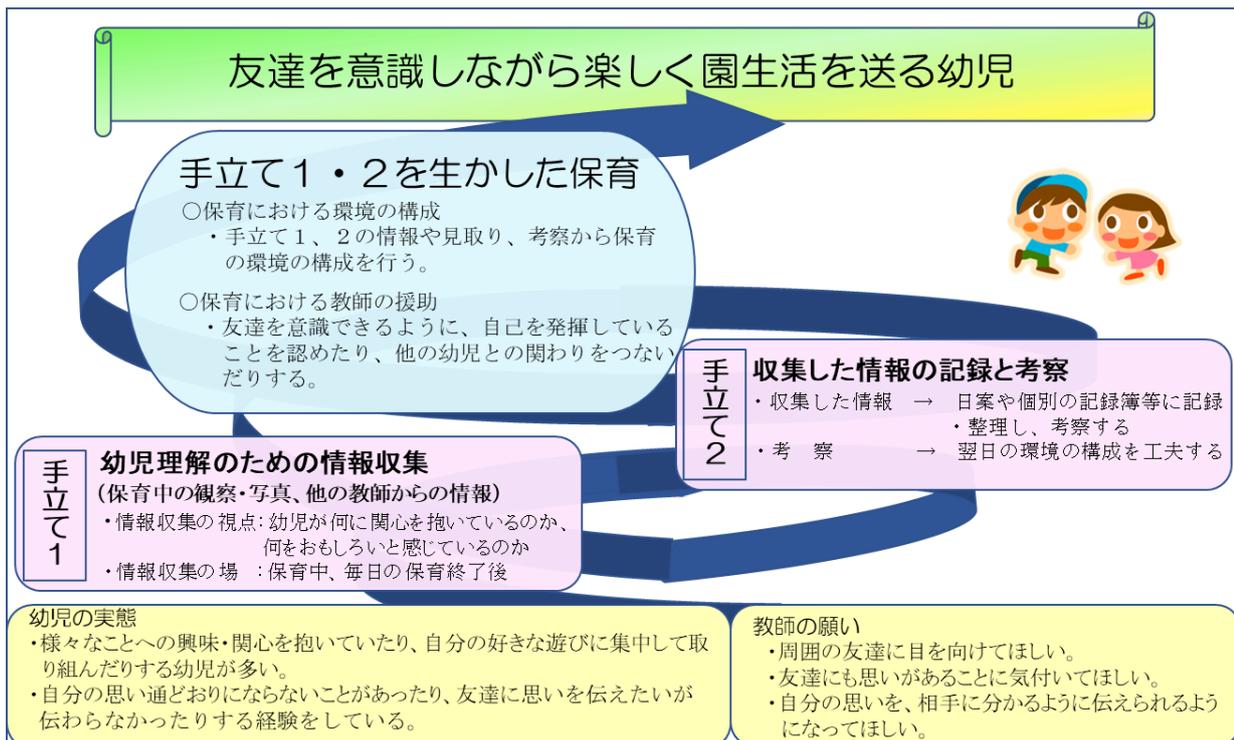
研究協力園では、友達と一緒に遊んだり、様々なことへ興味・関心を抱いたり、自分の好きなことに集中して取り組んだりする幼児が多い。また、友達と関わる中で、自分の思いどおりにならないことがあったり、友達に思いを伝えたいが伝わらなかったりする経験をしている。そこで、周囲の友達に目を向け、友達にも思いがあることに気付いてほしいと考える。そして、自分の思いを相手に分かるように伝えることの必要性や伝わった喜びなどを実感し、友達を意識できるようになってほしいと考える。

教師が一人一人の幼児を深く理解し適切に援助することで、幼児は安心して自己を発揮するようになる。さらに、幼児は様々なことへの興味や関心を広げ、他者を意識しながら楽しく遊んだり生活したりするようになることを考える。

そこで、教師が収集した情報を基に、幼児一人一人を様々な観点から理解することが重要であると考え、本テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 保育改善に向けた手立て

観察や記録写真、教師間の情報を基にした幼児理解を通して、友達を意識しながら楽しい園生活を送るようになる幼児の育成を目指す。そのために、次のような手立てを講じる。

### 手立て1 幼児理解のための情報収集（保育中の観察、保育中の写真、他の教師等からの情報）

- ・保育中の幼児の様子を記録するために、カメラ、記録用紙等を準備する。
- ・幼児が何に関心を抱いているのか、何をおもしろいと感じているのかなどを視点に情報収集する。
- ・他の教師から情報を収集する。（毎日の保育終了後、情報交換をする）

### 手立て2 収集した情報の記録と考察

- ・収集した情報を日案や個別の記録簿等に記録・整理し、考察する。（写真は、個別に保存しておく）
- ・考察する際には、表面的に現れた幼児の行動や表情から、その幼児の内面を推し量り、幼児が思いを実現するように、環境の構成を工夫していく。

### その後の保育に生かす

友達を意識しながら楽しく園生活を送るためには、幼児が何に関心を抱いているのか、何をおもしろいと感じているのかなどを視点に、幼児理解を深めることが重要であると考え。そのために、保育中の幼児の様子を観察し、写真を撮ったり、保育後に情報共有の時間を作り、他の教師から情報を集めたりする。また、収集した情報を日案や個別の記録簿等に記録し、幼児の実態把握や理解に努め、幼児の内面や変容を見取る。そして、記録と考察を基に、幼児が友達と関わって遊ぶように環境の構成を行う。教師は、幼児のよさや遊びに意欲的に取り組み自己を発揮していることを認めたり、他の幼児との関わりをつないだりしていくようにする。そうすることで幼児は、友達の思いや考えに気付いたり、関わりが深まったりして、友達を意識して楽しく園生活を送るようになる。このように、収集した情報を基に、幼児一人一人を様々な観点から理解することにより、目指す幼児像に向かって幼児を育てていきたい。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 幼児理解のために保育中に撮影した写真や他の教師からの情報等によって、保育中に見取りだけでは把握できなかった幼児の姿の意味や内面を知ることができた。
- 収集した情報を日案や記録簿等に記録・整理し考察したことで、幼児の実態把握ができ、幼児の内面や変容を見取るために有効であった。
- 記録と考察を基に、幼児のよさを伝えることを繰り返してきたことで、幼児が自己発揮しながら自信をもって行動したり、他の幼児を肯定的に捉えたりして、遊びや友達との関わりを深めていくことにつながった。

### 2 課題

- 幼児一人一人の実態把握や理解に努め、幼児の内面や変容を見取るためには、一層の情報収集と他の教師との連携を密に図るための時間や場の確保が必要である。
- 収集した情報を基に行った幼児の見取りや環境の構成、援助が適切であったか、教師間でカンファレンスを行い、考察や実践結果について共有していけるとよい。

## 実践例

### 1 研究に関連する実施当日のねらい及び内容

#### (1) ねらい（5歳児・2学期）

○友達の考えに興味をもち、思いを伝え合いながら遊びを進めることを楽しむようになる。

#### (2) 内容

- ・友達と競い合いながらリレーなどを楽しむ。
- ・友達と、役割を決めたり、ルールを考えたりしながら遊びを進める。
- ・思いや考えを伝え合いながら遊ぶ。

### 2 幼稚園教育要領上の位置付け及び環境の構成の視点

「幼稚園教育要領解説」の、「人間関係」の領域のねらいには、「身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ」とあり、人との関わりを深めていくことの重要性が示されている。幼稚園生活において、教師との信頼関係を基盤に、幼児は自己を発揮しながら自信をもって行動するようになる。そして、他の幼児との関わりが生まれる中で、友達と一緒に活動することの楽しさを感じるようになる。そこで、本実践において幼児が上述の「(2)内容」を経験するように、次の環境の構成の視点をもって保育を展開することとした。

＜友達と一緒に、競い合いながらリレーなどを楽しむための環境の構成＞

- ・幼児が自分たちで遊びだせるように、カラーコーンやハチマキ、カセットデッキ等をテラスに出しておく。
- ・自分なりの目的をもったり、チームで頑張る楽しさを感じたりできるように言葉を掛けていく。負けて悔しがったり、諦めたりしている幼児には、励ましたりチームの友達が頑張っていることを伝えたりして、意欲や自信につなげていけるようにする。
- ・チームの友達を応援したり、友達が頑張っていることを認める気持ちなどを大切にしたりしながら、必要に応じて教師も仲間になって参加したり、応援したりする。

＜友達と、役割を決めたり、ルールを考えたりしながら遊びを進めるための環境の構成＞

- ・教師も仲間となって遊びに加わり、楽しさを共有する。
- ・幼児のよい考えを皆に知らせたり、教師が疑問に思ったことを投げ掛けたりして、幼児が他の幼児の考えを聞きながら更に考えられるようにすることで、自分たちの遊びであるという意識や仲間意識を高めていけるようにする。

＜思いや考えを伝え合いながら遊ぶための環境の構成＞

- ・時間や場を保障する。遊びの状況に応じて、教師がアイデアや、遊び方・作り方などのヒントを出したり、材料を一緒に探したりしていく。

#### (1) 研究に関わる5歳児の教育課程

期 月	X I		X II		X III			X IV		X V				
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
発達の 過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境に慣れ、友達との遊びを楽しむ時期</li> <li>・友達との関わりを深める時期</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に思いを出し合いながら遊びを進める時期</li> <li>・友達と一緒に、感じたことや考えたことを工夫して遊ぶ時期</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通の目的に向かって友達と遊ぶ中で自己を発揮し、充実した園生活を過ごす時期</li> </ul>				
テーマに 関係する 幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と誘い合っ、今まで経験した遊びを楽しむ姿が見られる。</li> <li>・気の合う友達や同じ遊びに興味をもった幼児が集まって、遊びを展開するようになる。</li> <li>・友達と遊びを進めようとするが、思いの行き違いでトラブルになったり、遊びが消滅したりする。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・リレーや鬼ごっこなど、友達同士で遊びを進めようとするようになるが、集団が大きくなるとスムーズには進められず、遊びが中断したり、教師を頼ったりすることが多い。中には、話し合うことで解決しようとする幼児の姿が見られるようになる。</li> <li>・徐々に、自分の考えを周りの友達に伝えたり、友達の考えを受け入れたりするようになり、トラブルを自分たちで解決して遊びを継続しようとするようになる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを守って遊ぶ楽しさが分かるようになり、友達同士で相談して遊びを進めるようになる。</li> <li>・仲間意識や学級への所属意識が一層強くなり、自分たちで考えを出し合い、折り合いを付けながら協力して遊びを楽しく進めようとするようになる。</li> </ul>				

<p>研究に 関係する ねらい 及び内容</p>	<p>○先生や友達と好きな遊びを楽しむようになる。 ○自分の思ったことや考えたことを先生や友達に伝えて遊ぶようになる。 ・自分なりの思いをもって遊んだり、先生や友達に思いを話したりする。 ・友達と一緒に遊ぶ中で、自分のしたいことやしてほしいことを言葉で伝える。</p>	<p>○自分なりの目的をもったり、運動会に向かって友達と一緒に力を合わせて頑張ったりするようになる。 ○友達と共通の目的をもち、考えを出し合って遊ぶようになる。 ・遊び方やルールなど、自分の思ったことを話したり、友達の考えを聞いたり、考えたり試したりして、友達と一緒に遊ぶ。 ・友達と共通の目的をもち、考えを出し合ったり、協力したりしながら製作をする。</p>	<p>○友達と共通の目的をもち、相談したり協力したり、工夫したりして遊びを進める楽しさを味わうようになる。 ・友達と考えたことやイメージしたことを伝え合ったり相談したりして、遊びを進める。</p>
--------------------------------------	--	--	--

(2) 本実践につながる幼児の姿

幼児の姿	考察
<p>運動会が迫り、D児、F児、G児、H児、J児、M児、O児、R児、S児、U児、V児、X児は思い思いの遊びでもリレーに取り組んでいた。友達と競い合って走ったり、「あの子と同じチームだと勝てるかも」などと、つぶやいたりしていた。(観察・写真)</p>	<p>友達と一緒に遊ぶことの楽しさを味わえるように、自分たちでチームを分けようとする姿を見守ったり状況に応じて仲介したりしてきたことで、幼児たちが友達と一緒にだからリレーが楽しいと思えるようになったのだと思われる。</p>
<p>F児、J児、K児、M児、N児、S児、W児、X児、Y児、Z児、a児は、鬼遊びをしようと友達を誘ったり、遊びのルールを確認したりしていた。鬼を決めて遊びだったが、鬼でないZ児が「鬼に変えるね」と言った。それを聞いて「何で勝手にルールを変えるの?」と他の幼児は怒った。Z児は、「だって疲れたから」と言った。他の幼児は「最初に決めたルールは守って」とZ児に伝えたが、Z児は聞かずに遊んでいた。他の幼児が、「ルールを守ってほしい」と繰り返し伝えると、Z児は「もう止める」と遊びから抜けた。(観察・写真・他の教師からの情報)</p>	<p>幼児の様子を見守りながら、思いを伝えるために必要に応じてモデルとなるような言葉を掛けてきた。幼児たちは、自分たちで決めたルールで遊びを続けようとしたが、一緒に遊んでいたZ児と他の幼児の思いが行き違い、互いの思いを分かり合えずにいたと思われる。自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりする状況をつくり、折り合いを付ける経験が今後にも必要になると考える。</p>
<p>A児、B児、N児、T児、Y児、a児が、カエルやバッタなどを捕まえていた。T児が虫網でバッタを捕まえたが、バッタが網から逃げそうになった。Y児は逃げそうになったバッタを手で捕まえ、自分の虫かごに入れた。T児が「何で取るの?」とY児に言うと、Y児は「俺が手で捕まえたから。とのさまバッタ、ゲット」と言ってその場を去り、他の友達に見せていた。(観察・写真)</p>	<p>Y児の勢いにおされ、自分の思いを言葉にできなくなってしまったT児は、自分の思いが出せるような経験の積み重ねが必要であると思われる。また、Y児は自己主張ができるので、友達の思いに気付くような教師の援助が必要であると考えられる。</p>
<p>H児とa児は、空き箱や折り紙を使って「ガチャガチャ」を作った。箱の中には「あたり」や「はずれ」などの紙を入れたり、お金を入れてガチャガチャを挿んだりできるようにした。そこへ、A児、C児、E児、G児、I児、K児、L児、N児、P児、Q児、Y児がガチャガチャをしたくて並んだ。その時、A児、G児、Y児が一斉にガチャガチャの中に手を入れたため、箱が破れた。H児が「a君と一緒に一生懸命に作ったのに、何で壊すの?」とA児、G児、Y児に問い掛けた。三人は「早くガチャガチャしたかったから」と答えた。H児が「順番に並んでよ」と声を掛けると三人は謝った。その後、H児とa児は、「みんな一気に来ると壊れるから、休みの時間もつくりよう」と相談した。(観察・メモ・写真)</p>	<p>空き箱製作では、H児とa児が自分たちで作った「ガチャガチャ」で友達が遊んでくれて嬉しいと感じた気持ちに共感したり、遊ぶためには順番に並ぶことや時間を決めることなど、ルールがあるとよいことに気づき、考えて進めようとする姿を見守ったり励ましたりした。そのことが、友達に遊んでもらいたい意欲を高めることにつながった。</p>
<p>運動会に向けた全体活動(親子競技のさるかに合戦玉入れ)では、さる役の幼児のほとんどが、かに役の担任が背負うカゴを目掛けて柿を投げ入れようと、担任を追いかけていたが、D児は「入らないからやりたくない」と言って追いかけるのをやめた。そこで全体活動後の思い思いの遊びの中で、担任がカゴを背負い、D児や他の幼児の前に行くと「全部入れよう、おう」と数名の幼児が言った。その声を聞き、D児が「俺もやってやる!」と園庭の中央に向かって走り出した。(観察・メモ)</p>	<p>D児は、今までもクラス全体の活動のときは取り組まないが、個別であれば「やってみよう」と思う気持ちになることが多かった。D児の気持ちに寄り添いながら、教師と個別の関わりの中で経験ができるような環境をつくることで、経験を積み重ね、そのことが自信となり、活動に参加できるようになったと思われる。</p>

3 本時及び具体化した手立てについて

<p><b>手立て1</b> ・保育中の幼児の様子を観察したり、写真を撮りデータを保存したり、保育後に他の教師から情報を集めたりする。</p> <p><b>手立て2</b> ・収集した情報を日案や個別の記録簿等に記録・整理し、幼児の内面や変容を見取り、考察する。 ・記録と考察を基に、保育では、幼児がやりたいことを見付け、意欲的に取り組み、自己を発揮していることを認める。また、幼児のよさを認めたり、他の幼児との関わりをつないだりする。</p>
--

## 4 保育の実際

### (1) 事例1 「かっこいいギターを作りたい」

<p>＜収集した情報＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ A児は自分の思いや考えをもっている。困ったときは教師を頼ることが多い。 (観察・他の教師からの情報)</li><li>・ A児は、自分の思いを受け止めてくれるB児に信頼感をもっている。(観察・他の教師からの情報)</li></ul> <p>＜考察＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりして、折り合いを付ける経験をしてほしいと考える。そのために、B児との関わりをつなぎ、それを軸に他の幼児との関わりに広げていきたい。</li></ul>	
<p>＜幼児の姿と教師の援助＞</p> <p>空き箱やガムテープ、輪ゴム等を使って、A児はギターを作っていた。ティッシュの箱をガムテープでつないで形を作り、ギターを弾くポーズをした。しかし音が出ないことに気づき、教師に「輪ゴムください」と言いに来た。輪ゴムをもらい、ギターの弦に見立てようとするが、輪ゴムの付け方に困り「うまくいかない」と言って教師を頼った。教師はA児の思いを受け止め、A児が信頼しているB児に<u>どうしたらいいかと尋ねてみることを提案した。</u></p> <p>A児はB児に「ゴムが付かないんだよ」と聞いた。B児は「ここをテープで止めればいいんじゃない」と答えた。A児はB児に教えてもらったようにやった。しかし、輪ゴムが付かなかったため、教師に「また壊れちゃった」と訴えた。教師がA児に「頑張っているね」と励ましの言葉を掛けると、A児はガムテープを貼りさらに強化し、ギターが出来上がった。ギターを持ち弾いている表情からは、笑顔が見られた。</p>	 <p>図1 B児の考えを受け入れ、輪ゴムを付ける場面</p>
<p>＜事後の幼児の姿＞</p> <p>クラス全体で行った振り返りの時間に、A児が「輪ゴムの付け方を教えてもらえて嬉しかった」とB児との関わりについて発言した。A児は、C児に「ギター、かっこよかった」と言われ、笑顔になった。A児が挙手をして友達にしてもらって嬉しかったことを言葉にして伝えられたことを認めたり褒めたりし、クラス全員で拍手を送った。A児は笑顔になり、B児と目を合わせて満足そうだった。</p>	

### (2) 事例2 「段ボールロボットに、僕もなりたいたい」

<p>＜収集した情報＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ D児とE児は一人で遊ぶことが多く、教師との関わりを好む。(観察・写真・他の教師からの情報)</li></ul> <p>＜考察＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 教師と関わることで、気持ちが安定することが多い。そのために、教師との信頼関係の基、友達と一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように、友達との関わりがもてるような援助が必要である。</li></ul>	
<p>＜幼児の姿と教師の援助＞</p> <p>E児がティッシュの箱を使って、ロボットの被り物を作っていた。その後、段ボールを使って体の部分を作りたいと、教師に自分の思いを伝えてきた。D児は、教師が段ボールを持ってきてE児に渡す様子を見て、E児の遊んでいることに興味を示した。E児と同じ段ボールロボットになりたいのだからと教師は読み取り、D児の段ボールも用意した。E児が段ボールの中に入ると、D児が「僕も」と言い、段ボールロボットになった。二人は段ボールロボットと同じ色の物を探して歩き、「あれも〇〇ロボだ」と名前を付けていた。</p>	 <p>図2 段ボールロボットになろうとしているD児</p>
<p>＜事後の幼児の姿＞</p> <p>その後D児とE児は、クラス全員と一緒に遊戯室に行き、体操やゲームをして遊んだ。また、給食の時間になると、隣に座って食べようと、お互いに意識して様子を見合っていた。</p>	

## 5 考察

雨天で室内での遊びだったが、じっくりと思いをイメージした遊びをする時間を確保することができた。前日までの幼児一人一人の思いを教師が読み取り、幼児の思いや考え、よさを認めながら援助をしてきたことで、幼児は、友達の遊びに興味をもったり思いや考えを伝えたりしながら遊んだ。また、タイミングを捉え、個に応じた言葉掛けをするなど、幼児同士の関わりをつなぐ援助を心掛けてきたことで、「まねしてみよう」「楽しそうだな」「上手」などと友達を認める気持ちが出てきている。さらに、一日の振り返りの時間に互いを認め合える雰囲気をつくり、嬉しかったことや頑張ったこと、友達のよいところ等を発表する時間を十分につくることで、友達のよいところを知ることができた。しかし、幼児の思いを他の幼児に気付いてもらうために、他の幼児の考えを聞けるよう仲介したり、教師の誘導を少なくしたりするような援助の工夫が足りなかったようにも思われる。幼児同士で関わり合い、遊びを進めていけるように、幼児に自分を認めてもらえた気持ちをもたせたり、自信をもてるような言葉掛けをしたりするなど、教師の意図的な関わり方の工夫が必要であったと考える。

このように幼児は、友達との関わりを広げたり深めたりしながら、友達を意識して園生活を送るようになってきていると捉える。幼児の内面や変容を捉えることの重要性を改めて感じた。